

2021年2月4日

東大部会 北脇泰登(三井物産OB)

2014年7月から2015年9月の東京大学大学院卒業まで、FACEの紹介で、中国珠海市出身の卓展韜様と楽しく一対一交流をしました。2015年10月に彼は中国へ帰国して、就職をした後も交流を続け、珠海に夫婦で何度か訪問をしていました。

珠海市は、広東省南部にある人口150万人の近代的な都市で、マカオに接し南シナ海に面した温暖な気候の街です。熱海市との友好都市で、海鮮や果物がおいしいリゾート感覚溢れる街です。市内には新幹線の駅やジンベイザメが3匹泳ぐ世界の大水槽がある水族館があり、パナソニック、ダイキンなど日本企業が工業団地に進出している街でもあります。

2018年10月に卓様と周様が婚約旅行に来日し、熱海の伊豆山神社や箱根芦ノ湖などを案内し、2019年春に結婚式の招待を受け、夏に動画の招待状を受け取りました。



2019年9月13日に羽田空港を出発し香港島で宿泊しましたが、香港民主化デモがあちこちで多発しており、14日急ぎフェリーで珠海に入り、湖南の赤いザリガニ料理を頂き、15日にバルセロナや日本から駆け付けた卓君の友人達と前夜祭をしました。

9月16日の結婚式の朝、「新郎が新婦を自宅に出迎える式」に立ち会いました。前夜祭の友人達が黒いサングラスと黒い服とを着て、赤い中国服を着た卓君を盛り立て祝います。その後、黒塗り6台の車に分乗して花嫁宅に向かいましたが、撮影車がビデオを撮りながら前後を追随し、交通渋滞を起こしながら花嫁宅に到着しました。花嫁宅では玄関まで赤い絨毯(じゅうたん)が敷かれており、花嫁友人達が新郎を取り囲み家に入れません。新郎から花嫁友人達に赤いご祝儀袋が沢山たくさん配られ、やっとのことで家に入り、新婦の部屋に隠された靴を見つけだし、赤いチャイナドレスの新婦とキスをして一段落です。

その後、広い応接間で、新婦のご両親に二人がお礼の言葉を述べた後、次から次へと花嫁へ親戚の方々から金のネックレスや腕輪が贈られました。

新郎宅の玄関にも赤い絨毯(じゅうたん)が敷かれ、赤い紙吹雪で新婦を迎え、新郎新婦が揃って玄関の仏壇の前で一礼して、新婦側から赤いポストンバックに入った大金や品物が渡されました。その後、新郎の両親に二人で挨拶をし、今度は新郎の親戚から花嫁に金のネックレスや腕輪が次々贈られ、花嫁はほほ笑みながらお礼を述べていましたが、お辞儀のたびに重そうでした。



インターコンチネンタルホテルにあるメインの400人収容の大宴会場に、樹木と花で飾られた舞台が中央に設置され、40テーブルが両脇に配置され、海外や中国全土から集まった方々が着席されて結婚式が始まりました。

来賓挨拶、新郎新婦から両親への花束贈呈と新郎挨拶が始めにあり、各テーブルに子豚の丸焼きが40頭運ばれて宴会開始です。次から次へと料理が運ばれる間に、われわれ夫婦も新郎新婦から「東京でお世話になった先生」と紹介され大きな拍手を受けました。

花嫁は白いウェディングドレス、新郎はタキシードでしたが、参加者にはTシャツ姿の友人やスーツ姿、年配者は中国服の方もおり服装はまちまち、お酒が入りワイワイとなり、ひとしきり食べ終わるとそれぞれ勝手に帰って行きました。日本のように、新郎新婦が両親に花束を贈り、感謝の言葉を述べてお開きとなることはなく自由解散方式でした。

9月17日に、卓様の友人達と「赤い結婚式」の余韻を楽しみながら、珠海から香港まで55kmの新設された「港珠澳大橋」を専用バスで渡り、香港市内の民主化デモ騒ぎに巻き込まれることなく、無事に香港空港から羽田空港に戻りました。

昨年秋、卓家に息子様が生誕し、卓様は「中国と日本の懸け橋になる」と張り切って深圳で働いています。新型コロナが落ち着いたら、また珠海を訪れて卓様御一家との交流を深めたいと思っています。孫のような卓様の息子様の成長が楽しみです。